榛　建　第　942　号
平成 15 年 1 月 22 日

木津川上流工事事務所長　殿

榛原町長　　前田　禎郎

淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料
についての意見要望書の提出について

このことについて、平成 15 年 1 月 8 日付け事務連絡により依頼のあった標記の件について、別紙のとおり申しいれたいと思いますので、宜しくお願い致します。

淀川水系河川整備計画策定についての意見について

今回の淀川水系流域河川整備計画については、Ｈ９年以前の治水・利水の体系的な制度の整備と異なり、環境を加えた総合的な河川制度の整備とするため、地域の意見を反映した河川整備の計画制度を導入したもので、地域住民の活動も含めた河川整備目標や河川工事・河川維持の内容となる計画を策定されること、今の時代に反映した計画をされることについては、大変意義深いことであると思います。淀川水系流域委員会の方々には、各方面からの沢山の意見を汲みいれられ、この流域に住む者の川に対する気持ちを、思いを、まとめられ流域全体の河川整備計画を策定されることを切望致します。

さて、この町は、木津川の最上流端部に位置する高原のまちで、標高 250m～880m 東西に鉄道と国道が平行して通り、駅を中心に旧市街地その周りには林野・田畑を造成した住宅地が広がりその中を河川が流れています。また、中心を離れると町の約７割の面積となる山林が広がっています。

戦後わが国は、他の国から経済大国と言われるほどの進歩を遂げ発展しましたが、失ったものも数知れず私の住むまちも他のまちと同じく、発展の代償として我々は、自然からのしっぺ返しを災害や公害等で被っています。

今から 30 年～40 年前のわが町では、町の中を流れる川は、人工的に造られた護岸や堰の無い川で、川岸にはススキやタンポポその他植物が覆い茂っており、かわの中ではフナや鯉・鰻・メダカ等の魚類、トンボの幼虫のヤゴやカワニナ、夏になるとホタルが飛び交うなど昆虫の姿もおおく見られ、年間を通じて水量の変わらない水の濁りやゴミ等の無いきれいな川でした。この事は川幅の狭い川でも同様で、子供が川原などで安心していろんな川遊びをしていました。また、町の中の宅地の間を点在して田・畑や溜池も多く残っており、タニシやゲンゴロウ・イモリ等の姿も見ることが出来ました。今では、田畑・溜池も宅地化されその空き地には、セイタカアワダチソウを代表とする外来種が横行しその花粉に悩まされ、宅地造成等により自然河川は無くなり、下水道等整備されているものの、そこは魚の棲める状態ではなく、ゴミや汚水により水質も悪化し悪臭もはなっている状況となっています。そして、舗装されきれいに整備された道路となった今、夏にはｱｽﾌｧﾙﾄによる反射熱の暑さにたまらずエアコンを入れ中は涼しくなったが外の空気その気化熱で熱くなり悪循環となっています。さらに、山間部に目を向けて見ると、むかし茅葺の住居や風呂の薪・炭を焼く為の用材として広葉樹が山全体に広がり、四季の変化が手に取るように判ったが、今では杉や桧に代表されるように植林された人工林に代わっています。個人所有の山林がほとんどであること、植林すれば儲かるということで保水能力の低い杉や桧に造林されたものと思われます。近年個人で下草刈や間伐・枝打ち等の維持管理でそれにかかる費用の負担が増し、また台風や雪害で

倒れたり折れたりで、今では手入れのない放置された状態となっている、その山の中に入ると昼間でも懐中電灯が必要な程荒れた山、いつ災害が起きても不思議でない山となっている。その為、井戸や谷間での取り水はその水量の低下から出来なくなり、野鳥や動物の姿も減少、杉や桧の人工林ではその花粉の大量発生に毎年悩まされ続けています。自然林は、自然公園になった一部や神社等の山でしか見られなくなりました。

このように、我々は自然を無くし変化させてきた、空気は？水は？だれが造ったのか食物連鎖も含め生態系を考慮すると、山が川をつくっていくことになると気づくはずです。

当町のある自治会では、平成10年9月の台風7号で壊滅的に杉桧が折れ、倒れる被害を受けた区有林がありました。地元区民の間で荒れた山をどのようにしていこうかと話があり、この山の頂上からは、天候の良い日には北は笠置の山々や瀬田・西は大阪湾がはるか遠方に見渡す事ができ、淀川水系を望むことが出来る木津川上流の最上流の頂の見晴らしの良い位置にあり、ここに降った雨は川となる一番最初の流れとなり、木津川・淀川を流れ大阪湾にそそぎこむ、その過程をこの場所から見ることができる。被害を受けたのは約3ha、そこを杉や桧の替わりにさくらを植林し、きれいな空・きれいな水・きれいな山・きれいな川を取り戻す最初の事例として区民全体として取組んだらどうか、そこをさくらの名所にして区民はじめ皆の憩いの場にしたらということになり、町の協力や区民総出の体制で折れた木の処分・地開け・さくらの植樹を行い、年に数回のさくらの維持管理（下草刈等）を行っている。完成までにいろんな問題が有りましたが、昨年ようやく憩いの場として整備されたことから「区民の森」と名付けそして、区民の日を設定し、その日に区民全員が集まり自然の中で、一日のんびりと子供や年寄りなど皆が山のこと川のことなどについて、語らいあい自然と触れ合うことができました。

このような取り組みをこの淀川流域全体で個々の面積はさほど大きくなくても、取り組みの場所を多く持つことができたら、ダムひとつ分の保水能力が期待できる「山のダム」事業として展開して頂けたらとおもいます。そして、その用地確保に伴う助成や維持管理に必要な用具等の支給があれば、その地域住民の協力により活動できる体制を作ることができるのではないか、林野庁や農水省との協力体制を取り是非制度実施に向けて検討して頂きたいと思います。

先にも触れた事ですが、このまちは、標高差630mもあり河川の流水勾配も急でV字谷の様にその流れも速く河川の河床や自然の護岸を侵食し下流へ土砂を流して行き、多くの山間部で見られるように河川に沿って山と川の狭隘な中に道路や住宅地・田畑があり、局地的な豪雨や長期にわたる長雨に対して下流の地域の堤防や護岸によって安心して住むことの出来るということは、最上流部

のこの町においてはまだまだ手つかずの所が有ります。

もし、山で土砂崩れや土石流が発生した時たちまちその土砂でライフラインである道路が寸断されそこからの下流においても洪水による甚大な被害が発生すると予想されます。その災害から未然に防ぐ手段として、護岸の無い非常に弱くなっている部分、護岸は有るがその石積の基礎部が洗掘され崩壊の恐れのある所、地盤の緩くなっている部分等について淀川流域全体を視野に入れていただき、堤防計画の無い部分の見直しをも含め、治山と治水の両面とその地域の環境に配慮頂きながら、地域住民の安全と生命財産を守る為、その対策を検討実施して頂きたい。

そして、わが町には、ダムが有りその貯水池の面積は相当なものであり、ダム湖の上流には新興住宅地や旧市街地があります近年夏には水不足が問題になり水の節水の広報が水道管理者から幾度となく有りますが、水源涵養の保水能力のある自然林の育成や、雨になると住宅造成地やゴルフ場等からの一時水のその多さに目をみはります。一度に多くの水を流下させないで一時貯めておく場所の確保が必要と思われます。例えば、学校や公園・公共施設又は個人の家にも雨水の備蓄施設を持たせる等の施策が必要と思われます。

また、ダムの周りには、自然林が多く残されている所で東海自然歩道がありハイカーや地域住民が散策し、憩いの場となっています。その為年に数度は林野火災が起こりその消火作業に手を焼いているところです。そこで、大きな災害発生時における緊急防災用水として活用できないものか、ダム湖への搬路整備と防災ステーションの検討と自然環境に配慮したダム湖法面の裸地に対する検討、湖面利用についてもゴミの不法投棄等の現状をふまえながら行って頂きたい。

ダムの水位調整や土砂移動の連続性に関わる事柄についての計画検討の際には、計画されるところのモニタリングはもちろんの事ですが、下記の事項について特に留意頂き検討していただきたくお願い致します。

<u>○洪水被害の軽減対策について</u>

a) 内牧川の鮒生橋から和田橋の間の左岸側の護岸については、川の流れが外カーブとなっている為流水が偏り常に左岸の護岸に当たっている事から護岸が緩んでおり何時崩壊するか判らない状態となっています。このことから事前に護岸の整備について実施して頂きたい。

b) 宇陀川の高倉橋下流から内牧川の合流部までの間がクランク状になっており不規則な川の流れになっています、その流水が右岸の空石積の護岸に当たり一部崩壊し危険な状態となっている為、河川の流水方線の是正とそれに伴う護岸整備の検討を要望します。

c) 宇陀川の船尾橋から高倉橋の間の右岸側が外カーブとなっている為流水が偏り空石積の基礎部の洗掘及び石積が抜け落ちている箇所もあります。このままでは、洗掘箇所が大きくなり崩壊するとその上部にある道路や背後の山も崩壊する事が予想され、宇陀川が閉塞されることになることから、早急に護岸の整備を要望致します。

d) 市街地の下流に室生ダム湖があり、ダム完成後水資源開発公団から町が引継いだ周辺の道路は全長約 15km 以上もありその周辺には民家が少ないものの、ダム湖周辺にハイキングや釣り等に来る町内外から年間を通して利用されている道路です。最近建設されたダム周辺の道路では、地域住民の意見を充分に盛り込み、最新の工法でより安全な道路となっていますが、榛原町では、引継いでから現在まで約 30 年程経過しており、今日まで毎年のように法面崩壊や落石等により通行不能となっています。災害の復旧や崩土の除去・草刈・橋梁等の維持管理に伴う労力と町が負担する単独費用は年々増加しており、その財源の確保には並々ならぬ苦労があります。また、このような状況は、ダムの管理用道路を市町村道としている他の市町村についても同様であると思われます。こうしたことから、ダム周辺地域の安全を確保する為にダム環境整備の一環として助成する制度の検討を要望致します。

e) 淀川水系である木津川上流の地域は、堰やダムが集中している為、治水における重要な地域であります。ここの気象は年間を通じて天気が変わりやすく、気象レーダーでも何処で局地的な豪雨が有るか予測のつきにくい地域であります。ダム周辺で雨が無くてもその上流部で豪雨が有った時、河川の流水勾配が急なところに大量の雨水が一度に川へ流れ込む為、その何箇所もの堰を倒しながら激流となりダムへ短時間で到達し、その流入に対する放流量の予測が出来ない等の障害が起きてくると考えられます。また、町の中心を流れる川沿いの市街地では、その上流部で田畑や山林等の造成により宅地化されたことにより、豪雨による家屋浸水の被害が起こっています。これら河川やダムに集中する流水について、その上流にある多数の小学校・幼稚園や公共施設等に貯留池を配し、洪水時に一度に川へ流れさせないようにダム管理者と連携を取りながら調整できれば、治水と利水・環境について大きな効果を得ることが出来るのではないか、現在大和川流域では総合治水対策特定河川事業で洪水時の一時貯留池に係る施設については、国の補助で治水対策を行っており、その制度が整備されていますが、淀川流域でも河川整備を総合的に考えて頂き保水能力向上や環境面に配慮した貯留池等について、治水対策制度の確立を要望致します。

○観光文化遺産の確保について

「ぬれ地蔵」室生ダム上流端の榛原町大字山辺三に祭られております。

…このぬれ地蔵は、鎌倉時代中期の作で伊勢街道あを越え道に面している石仏です。現在ダムの満水時にその姿を隠す魅惑的なお地蔵さんとして親しまれています。

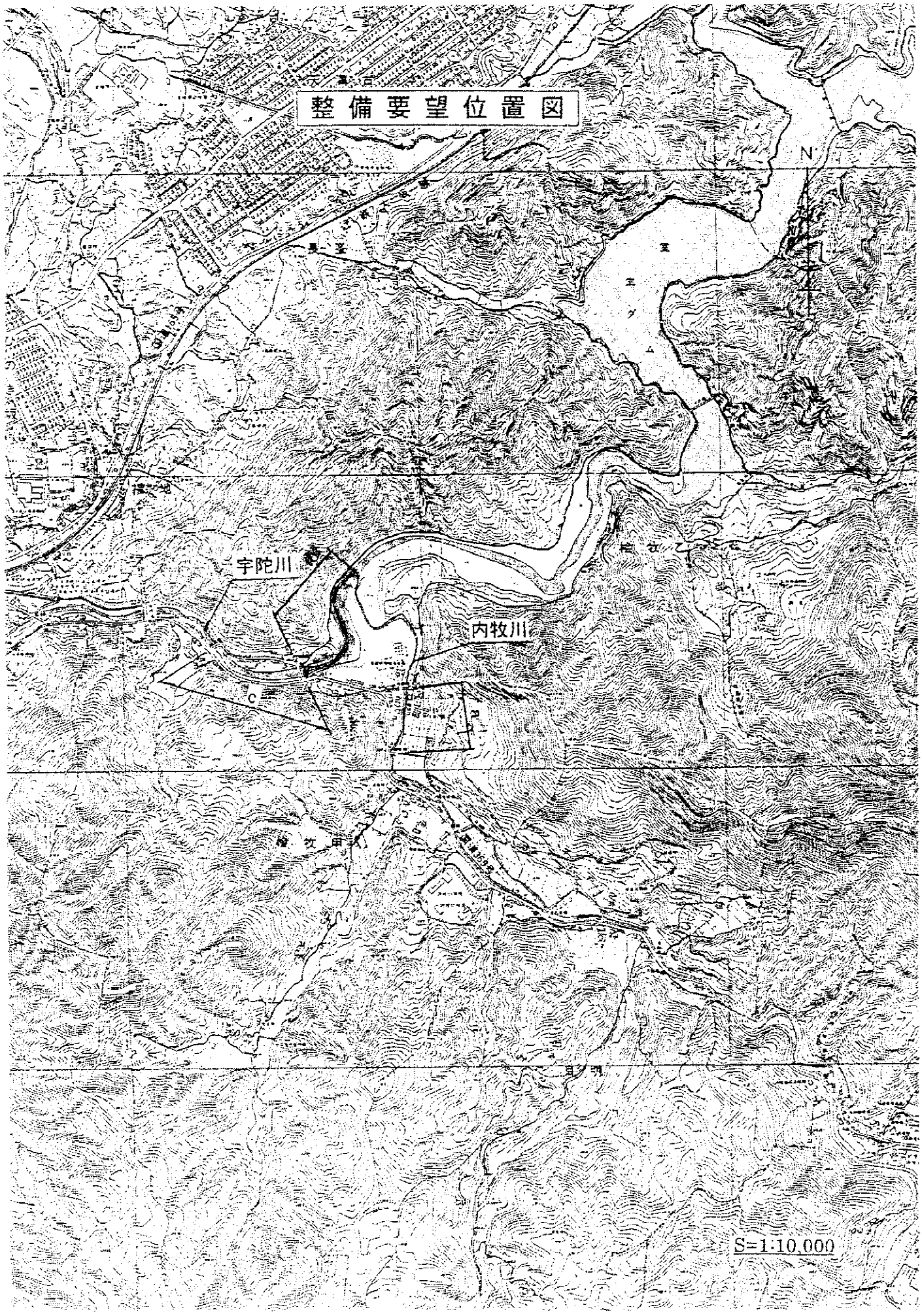
「竜鎮・深谷渓谷」　室生村との境にありハイカーやボーイスカウトの野外活動に利用されています。…この渓谷の水は、平成 3 年「やまとの水」として清澄な水 31 箇所に選ばれています。

○河川及びダム湖の動植物生態系の確保について

「オオサンショウウオ」生息地として次の 2 箇所が当町に有ります。

…①榛原町大字桧牧の内牧川と西谷川合流地点周辺

…②「竜鎮・深谷渓谷」周辺


整備要望位置図
N
宇陀川
内牧川
C
S=1:10,000